

事務事業マネジメントシート（20年度実績と21年度計画）

21年度予算編成後 平成 21 年 3 月 26 日 作成
20年度決算把握後 平成 21 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		笹原拾三町線歩道整備事業				☐ マニフェスト 関連 ☐ 全庁横断 課題関連 ☐ 集中改革 プラン関連							
総合計画体系	政 策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	都市建設部	課長名	上原哲也				
	施 策	3	交通安全対策の推進			所属課	建設課	担当者名	坂本卓博				
	基本事業	10	交通安全施設の整備			所属班	工務班	(内線)	2277				
法令根拠													
予算科目	会計	1	款	8	項	2	目	3	事業連番	10101	☒ 20年度で終了 ☐ 21年度から開始	成果優先度評価結果 — コスト削減優先度評価結果 —	
事業期間	☒ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)												
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)													
【事業の内容】 歩行者の安全を確保するために歩道整備L=150mの改良を行う事業。 【業務の流れ】 19年度 ①現況状況の把握により必要性を検討②測量設計業務、及び検査等、③用地交渉 20年度 関係機関協議、積算、工事発注、現場監督、中間・竣工検査、支払 1 現状把握の部(DO、PLAN)													
(1) 事務事業の目的と指標													
① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 関係機関協議、積算、工事発注、現場監督、中間・竣工検査、支払						21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)							
						⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) → ア 施工済延長 m イ							
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 笹原拾三町線						⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) → ア 全体延長 m イ							
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 歩行者の安全を確保するようにする						⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) → ア 歩道整備率 % イ							
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 事故誘発の要因とならない道路になっている						⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) → ア 設置箇所数/地区からの要望箇所の内、必要と判断された箇所数×100 % イ							
(2) 総事業費・指標等の推移													
		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ～ 年度			
投入量	事業費	国庫支出金	千円								(期間 限定 複数 年度 のみ 記載) 総 ト ー タ ル コ ス ト		
		都道府県支出金	千円										
		地方債	千円		6,020	6,270	7,343						
		その他	千円										
		繰入金	千円										
		一般財源	千円		317	330	386						
	人件費	(A) 事業費計	千円	0	6,337	6,600	7,729	0	0	0			0
		うち指定経費	千円										
		うち時間外、特殊勤務手当	千円										
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	7,483	7,412	8,541	0	0	0			0
活動指標		ア イ	m	0	115	115				3 3	目 標 合 計 値 画 22 年 度		
対象指標		ア イ	m	115	115	115				3			
成果指標		ア イ	%	50	100	100							
上位成果指標		ア イ	%	91	92	92							
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等													
① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 本路線は今回工事施工予定箇所のみ歩道がなかったが、路線沿いの土地が開発されることとなったため歩道用地を買収し、歩道設置することとなった。													
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 変わっていない。													
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? 平成19年は、地域住民から「歩道がなく通行に危険を感じるので早急に歩道を設置してほしい」との声があった。 平成20年工事終了後は、「歩きやすい道が出来た」との声があった。													

事務事業名	笹原拾三町線歩道整備事業	所属部	都市建設部	所属課	建設課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 道路改良後は、交差点に信号が設置され、歩道が整備されることにより、安心安全な通行を確保することになり、道路ネットワークの充実に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 本路線は市道であり、安全かつ快適な通行を図ることは市の義務であるため妥当である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 本路線は市道であり、安全かつ快適な通行を図ることは市の義務であるため妥当である。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 整備完了し成果が達成されたので向上の余地はない
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響無 ⇒【理由】 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) ☐ 影響有 ⇒【その内容】 事業完了
効率性 評価	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 事業完了 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業完了
公平性 評価	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業完了
	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 地域はもとより市民の通行利用もあることから、公正であると判断できる。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ①目的妥当性については、…。 ②有効性については、…。 ③効率性については、…。 ④公平性については、…。
---	--

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)…複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 事業完了	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持 低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持 低下			
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上		○															
	維持 低下																	

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策				
-----------------------------------	--	--	--	--

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度		(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度		(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)